

新潟県

公民館月報

昭和52年6月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市一番堀通町・県教育庁社会教育課内】

【電話・(新潟) 6111 内線 326】 【振替新潟 4094】

発行人 会長 石井 耕一

編集人 事務局長 本田 清

【定価1部 70円 年 840円】



クロマツ

むかしから、松がどのようにならぬから、私たちがくらしの中に生きてきたかを調べていくと、まず松は日本人に瑞祥のあらわれ、神木として滲透してきている。古来、

縁起のよい植物として、その常緑という点からいっても、変らぬ操の正しいもの、かつ風雪に堪えるものとして、長寿延命にむすびついて伝承された。松は松竹梅の筆頭に置かれ、日本人の心の象徴として讃美され、親しまれてきた。同時に松の生育に私たちは、先祖の生き方を見てきた。島國に孤高に生きてきた日本人は、肥料のあるはずもない巖上に枝ぶりの見事に聳える松の木に、己の理想像を見出してきたといえよう。

何百年も昔の古文書や由緒・風土記・名所図会をたよりに各地に名木の跡をたずねてまわり、ひたひたと新しきを知るのである。(高橋雄三郎著・「松」より)

柏崎市では昭和四十五年、市制旅行三十周年あたり、市の木として「マツ(クロマツ、アカマツ)」を、市の花として「ヤマユリ」を選定した。

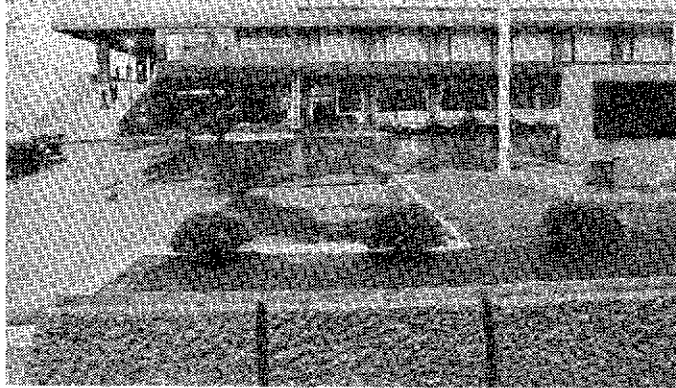
絵・池口光代(柏崎市) 文人画・南画家・田能村直外門人。現在、柏崎市中央公民館・婦人大学ゼミナール・日本画講師

日本画講師

豊栄市中央公民館が改築落成

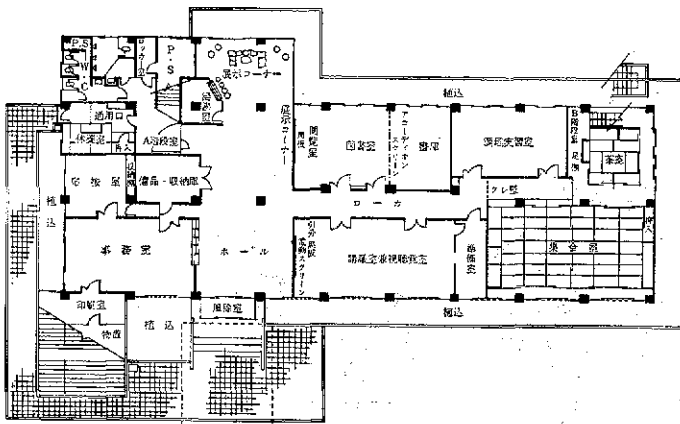
草創期の専用モデル

豪華近代施設に生れかわる

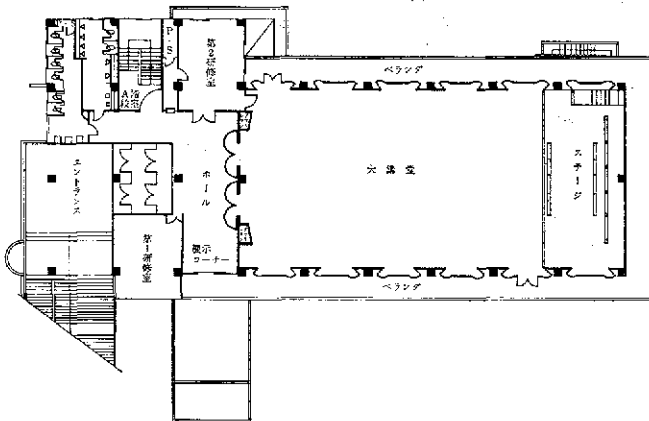


豊栄市中央公民館全景

一階平面図



二階平面図



豊栄市中央公民館 内における新築専用公民館第一号二部三階建、延床面積一千六百三十一(館長首藤信雄氏)として知られた豊栄町公民館(木十五平方メートル、冷房完備)が改築落成し、さる 五月二十五日関係者多数を交え竣工式が行なわれた。

同館の前身は、果

内における新築専用公民館第一号二部三階建、延床面積一千六百三十一(館長首藤信雄氏)として知られた豊栄町公民館(木十五平方メートル、冷房完備)が改築落成し、さる 五月二十五日関係者多数を交え竣工式が行なわれた。

同館の前身は、果

内における新築専用公民館第一号二部三階建、延床面積一千六百三十一(館長首藤信雄氏)として知られた豊栄町公民館(木十五平方メートル、冷房完備)が改築落成し、さる 五月二十五日関係者多数を交え竣工式が行なわれた。

同館の前身は、果

一、ロビー、三階はベントハウスとなっていて、拡張増築の余地を残している。

大講堂ステージのドンチエウの図柄は石井市長の発案といわれ、発展する豊栄市を象徴するようになり、越後連峰を背景に福島藩から飛びたつヒシクイと白鳥の群れが織り込まれている。

また展示コーナーには、京の清水焼の系譜をくみ、明治初期、地元、元太子堂で六兵衛、七兵衛により

首藤館長は「県内における専用第一号新築公民館という名誉を担ってきた公民館が見事に改築されました。」

当館の公民館長として活躍された石井市長をはじめ理事者や市民の理解のお蔭です。わたくしもうかうかしていません。今後とも心をこきしめて、いっそうがんばりたいと思ひます。」と語った。

地域社会の発展と豊かなくらしづくりにお手伝い

県内はもちろん、広く県外へのびた(だいし)のネットワークは111か店。皆さまの明日の豊かなくらしを願って日々努力を重ねています。

くらしの夢を育てる



第四銀行

本店/新潟市 創立/明治6年

公民館創設のころ

石井 耕 一



昭和二十三年十月ごろかと思う。当時、町商工会の役員で、文化協会も活動していた三村豊さんと、山瀬原郡小須戸町公民館を視察に行った。

創設間もない小須戸町公民館は、専用の建物も人もない。文化協会を中心と、授産、商工会、青年団等を誘集せしめて一つの看板に盛りかえたところだったのである。しかし、七十余名の役員でいくつかの部を構成し、あらゆる物と人との金を活用し、実に活発な事業を展開していた。それは、戦前の行政や住民活動にながらも新鮮なものであった。説明してくれた中学校の副野良知先生(当時兼務の公民館職員で、現在小須戸町公民館館長)が必死に語っていた。

小須戸町と山瀬原町は、町の規模も新築から比較的近距離で鉄道の便のわるいこと、半農半商、昔から小さな綿織物工場のあることなど、すべての面で似ている。そういうことになった。しかし、実施は容易なことではない。戦後の窮乏の中で、財源の調達が困難である。それ以上に、町民がどう思うか。思ひこまれた例がない。戦災地からの疎開者、外地からの引揚者で、任り家さえなく、不自由な簡借生活をしている者が多い。議会がこれを議決してくれるかどうかかわらない。この計画は、住民の意

識を超えた、無算ともいふべきものであった。

まず模擬青年議会を開いてこれを付議し、次代を担う青年たちの意識をもち上げよう計画した。これは、当時県が奨励していた自治振興運動の一事業といえる名の議員提案でこれを可決し、直ちに準備であった。議員は青年の中から実際の町議会に議員書を出し、選出するが、町長以下選挙者は

た。この冬中、毎日のようにペラペラ来ては、私と併しにたまたまたのハットである。私はひなをつれて庭に遊ばす日を楽しみに、注意深くその習性を観察しつづけた。細い五、六本の枯枝を集めただけの

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

長が決心は堅く、議会は住民の声に動かされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

の陳謝者、外地からの引揚者で、任り家さえなく、不自由な簡借生活をしている者が多い。議会がこれを議決してくれるかどうかかわらない。この計画は、住民の意

識を超えた、無算ともいふべきものであった。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

長が決心は堅く、議会は住民の声に動かされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

長が決心は堅く、議会は住民の声に動かされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

長が決心は堅く、議会は住民の声に動かされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

長が決心は堅く、議会は住民の声に動かされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

長が決心は堅く、議会は住民の声に動かされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

長が決心は堅く、議会は住民の声に動かされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。



灯台

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

長が決心は堅く、議会は住民の声に動かされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

長が決心は堅く、議会は住民の声に動かされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

長が決心は堅く、議会は住民の声に動かされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

長が決心は堅く、議会は住民の声に動かされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

たのだ。閉会後の反省会で、私はこれは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

長が決心は堅く、議会は住民の声に動かされなかった。私を名づけた。これは既定の案でなく、財源に拠がされなかった。私を名づけた。

みんなの力で成功させよう
全国公民館(新潟)大会へあと4ヵ月

夏期特別貯蓄運動実施中

たくわえて、あすの希望としあわせを

新潟県貯蓄推進委員会

実践記録シリーズ

(26)

「実践記録」のあれこれ、いろいろと反響を呼んでいます。あなたもぜひ書いてみてください。

早朝マラソン 継続中

都合のよいときにはどうぞ

マラソンは健康に、というわけで、日本中ずうとマラソン人もあつた。さかんにあつてはいる。

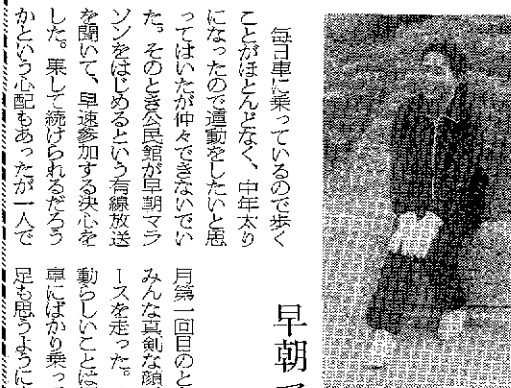
能生分館の運営委員会でマラソンの話がでたのは二年前の六月であつた。体力づくりのためにマラソンをはじめたのが一人ではあつた。ところが、分館でもマラソンをやる人があつた。そのとき、分館委員が提言した。そこで、それでは地域の人人々に呼びかけて分館事業としてマラソンをはじめようではないかといふことになつた。

人も家庭の主婦でも参加できようである。実施は毎日曜日とし朝六時のサイレンを合図に文化体育館前を二回(二五〇分間走る。各八分)を二五〇分間走る。各自自分の体力に応じて無理をせずに走ること、などがきめられた。分館委員会の役員が中心になり、日曜の早朝マラソンが



たち人地区泊小の走る線線

早朝、具体的な計画が話し合われ、次の仕事が決まらされた。コースの選定... 事故防止を考慮、交通量の多い道路を避けて、サイクリング道や田舎の静かな道をコースを選定した。運営委員達によってコースの実測がおこなわれた。二コースは大体に二・五回、三回、三・五回である。各自の体力に応じて好きなコースを走ればよい。地域住民への呼びかけ... ボスターの掲示と有線放送を利用して、一般への呼びかけがなされた。多勢の人が参加しやすい時間を考えて午前六時ということになった。この時間なら勤めのある



毎日車に乗っているので歩くことがほとんどなく、中年太りになつたので運動をしたいと思つてはいたが仲々できないので、そのとき公民館が早朝マラソンをはじめるといふ有線放送を聞いて、早速参加する決心をした。果して続けられるかどうかという心配もあつたが一人

は、切れた。毎日の仕事で能率よくできるよつになつた。この頃では日曜と水曜の朝は日替時計が鳴らなくて目がさめるよつになつた。娘も東京から帰つてきたので娘婿と三人で走っている。朝六時から三〇分位の時間なので、やる気さえあれば誰でも参加できる時間だと思ふ。現に私も帰つてから朝の食事の仕度や市場の土入れなど普通の仕事には少しも差支えなかつている。もっと多勢の三層の方たちから参加してもらいたいものです。

早朝マラソンに参加して

主婦 松本 喜久枝

月第一回目のときに参加した。みんな真剣な顔で二・五回のコースを走つた。こしはつらいつつ、動かしにくい荷物もなかり、足も思うようにまかせない。肩



畑野町公民館



十回を数える家庭教育推進大会

畑野町には畑野町、松ヶ崎の二
公民館があり各々地域住民の要望
に応じて各種事業を果敢とて
が、合同で実施し相互理解と親睦
を深めるとする事業の一つに家庭教
育推進大会がある。昭和四十二年
当初、小中学校期に
於ける児童生徒の家
庭教育の重要性にか
んがみ町内小学校四校
出二校の父母を対
象に町費による委託
家庭教育学校を開設
してまいり、その成
果を代表者に発表を
た。そして毎月を兼ね本年度は十

家庭教育推進に力 活力ある子どもを育てたい

「各単位学級はテーマをきめて
年間約五回の学習をする
2. 十二月下旬各単位学級役員
合同研修会を開く。
3. 第十回家庭教育推進大会は五
十二年二月下旬。主眼は現在
の社会情勢の中で家庭教育は
どうあるべきか。小学低・高
・中学の三分科会をもちテ
マは家庭における子どもの役
割大人の役割で研究討論する
午後講師先生の講演を聞く。
学級役員合同研修会
十二月十一日役員三十五名参加
し合同研修会を開く。各単位学級
よりの今までの研究経過が報告され
全体で更に研究を深めたがいっ
かを拾ってみよう

- ・家事手伝いと家庭学習
- ・子どもの健康と食生活
- ・共働き家庭の子どもと祖父
- ・子どもの進路、後援者問題と親
- の考え方
- ・子どもの嫉と親の態度

年度の事業計画
春の最盛期も終わった五月二十八
日町内小中の学級代表に集めても
難い昨年度の反省のもとに、本年
度の方針を協議してもらった。

等々各学級とも講師を招いたりし
て広く深く研究され熱心な様子か
うかがえたが一面共働きを各組
生(〇四名)の出席をえて開催、開
休行事の土・日中由等出席の困
難等も話題になったが都合つけ
てつとめて出席してもらって分
けて研究討論した。始めは違

畑野町家庭教育推進大会が今
年で十回目であるといつのに私
にとっては長男が義務教育を終
えているが、何しろ今までは一
度も出席したことがなかったの
で、参加申込みにとまどいまし
た。忙しいのに家庭教育だなん
て...子どものことば学校の先
生にまかせておけばいい、いつ
もの参加者の顔ぶれがPTA
の役員だ、等の意識があったの



めまよとの話になった。その後推
進大会の運営について具体的に話
合ひ大会にそなえた。
話より態度で

感がらであつたが話合ひが進むに
つれ発言も流暢になり正午を過ぎ
ても終わらぬくらいであった。中食
休みは員指定のふるさと運動の
体みは員指定のふるさと運動の

朝九時半開会、公民館長を
、教育委員のあいさつの後
町長さんからの祝辞があり、そ
の後小中学校を対象とした三分
科会に分かれた。各分科会でも
一家庭における子どもの役割、
おとなの役割について討論さ
れた。私は小学校一年生の女の

かもしれない。しかし、ある人
の話を聞き、教育は学校教育、
家庭教育、社会教育とがうまく
連携してこそ、その効果がある
り、又そこが自立な人間形成
がなされるのだとまことに驚
り参加した。

大切なはだのふれあい
佐藤 将雄
。口癖生活習慣と家事手伝い
による勤労のよさを理解さ
せる
。ストレス解消のほだのふれあ
い
。仕事の分担
。労働の報酬については、素な
どの時に与え、金銭的教育と

子の親として第一分科会に参加
した。参加人員三十五名で、現
実の問題点等、種々積極的な意
見が出され
。親は權威と愛情を持ち、過保
護ときびしさを失わないよ
う
。又午後からは、参加者四人
の全体会があり、指導講師
等が絶えなかった。
。又午後からは、参加者四人

郷土芸能春駒の発表があり、午後
各分科会の報告討論があった。全
体を通じて
。家庭学習の習慣化、家事手伝い
による勤労の喜びや後援者問題
を
。親は子どもの真の理解を
。親子は家の伝統とまごももも
。親は生活の基本は親は權威と愛
情をもつてあれ
。特に子どもは常に目覚めている親は
生活態度を正せ
等々が強調された。
次に具社教課長中浜先生が子ども
をよくするために親は言うたらよ
いかに話し二時間余にわたる講演
をして頂き一回に深い感銘を与え

私たちが公民館の家庭教育推進大
会も十回という一つの節を作った
が、教育の荒廃等叫ばれている今
日心を新たにして諸活動に一段と
精進したいものである。
(畑野町公民館長 菊池泰次)

推進大会は終了した。省りみて
一児童生徒の非行増加低学力化、
当人より非難感を感じられぬ、
親は知らぬ等聞き更に学習を
進めて行くことが必要である
。親が多忙な生活の中で強く子ど
もの事を考えさせているが、も
っと研究してほしい。
。学級生が自分の考えを上手に発
表できるよつたになってきつた
る

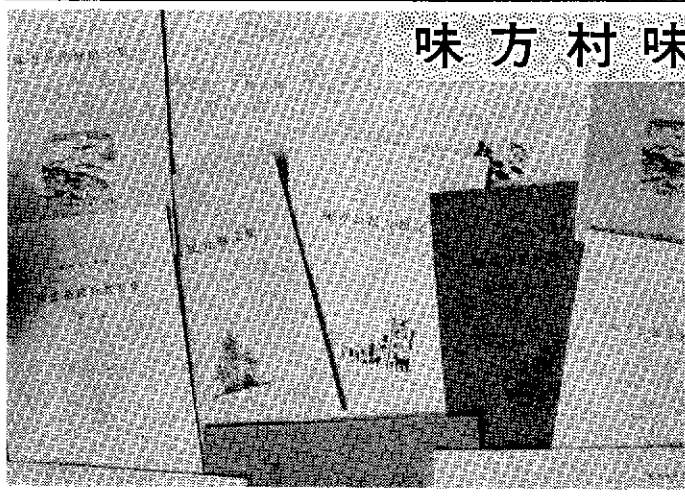
(筆 教 生)

味方村味方分館

地域連帯の輪ひろがる

目玉は婦人学級と文集発行

本村は九八一世帯、人口四、七〇〇人、七種分館と相携え、一六〇という小規模農村で、公民館は本館と三分館で運営されている。二年前三小学校が統合され、その校舎をそのまま分館に転用したので、極めて適正規模な配置となっている。従って本村では分館活動が社会教育の中心であって、



九年間続いている文集

分館三分館は大字味方の四四三三三、〇〇〇円(五十一年度)の予算で運営され、分館長と大名の分館運営委員が推進役であるが、特色は、婦人会・民謡クラブ・分館三者の協働体制が旨くいつていることである。分館運営委員と部落内の各団体代表者との会合を年三回開いて意志の疎通をはかっており、極めて熱心な話し合いが交わされている。

婦人の大部分が婦人会員であると共に民謡クラブ会員で、このクラブの活動が大へん花々しい。婦人学級の学習活動や生花・料理・着付の生活学習と組み合わされたり、夏には新潟市や白根市の民謡流しに、抽ひの浴衣を着て参加するといった熱の入れようである。が単なる「踊る婦人会」でなく、教育活動の支えとなり後進となつていく。

分館の主力は婦人学級におかれ、十数年つづけられている。特に五十一年度は「同性の話をきこう」をキャッチフレーズに、「家庭婦人としての自覚を高め、趣味を豊

かにして中絶な家庭をつくる」という目標を立て、四人の女性講師から「家庭の人間関係」「家庭婦人のあり方」「主婦とくらし」「青少年の健全育成」について講話を受け、その後活発な話し合いをした。また、聞いたこと話し合ったことは家庭に持ち帰ることで家族の話し合いの材料にし、家族全体からまろこばれ、それがまた学級生の出席率を高め、地域の中に

「当村の誇れるもの」それは十回を数えた。社会教育振興大会である。四十一年に村社会教育委員会設置の記念事業として始められた。主催は教育委員会であるが深く村民に浸透させ盛況にするのが私も運営審議会委員の務めであると思えていた。

社会教育委員公民館運営審議会



わが子の目
細い目
小ぢやな目
それが
わが子の目

その目で何時も私を見つめてい

学習参加の輪を広げている。少しオーバーであるが、こういう方向を目指して牛の歩みをつづけているつもりである。

文集発行は九年前より実施され、学級生を中心に生活記録等をのせているが、この活動も漸く定着したままで全戸に配布されている。

次の時は五十一年度発行の第九号のつたものである。

私の嬉しい時も悲しい時もみんな
細い目で、母ちゃん
頑張ってね...と励ましてくれる
私の大きな支えの目だ。

分館としては、地域子ども会の育成が本年度の課題であるが、本年度第三回を迎える対岸白根市の子ども会との統合大会を契機に、目玉をつけたいと考えている。

比叡に密着した分館活動を、本年度も更に推進したいと念願している。

(分館長 薄田 敏)



委員は車の運転、協力して、村長村議婦人会、青年団老人会、PTA等村のあらゆる団体を結集しての大会であるとも努めてきた。テーマによって分科会にわかれて討議、最後に指導講話

当村の誇れるもの

笹川 光

で終わる形が多かった。

主な問題を拾って見ると、第一一回「村を豊かにするたぐい」農家の余剰労働力の活用と、農工業者の求人難の問題(これはのまう)に対処したところだ。「家庭でのミニゲーム」不足は極

件数確保」等を要する。

低成長期から高成長期への移行、肉体労働から頭脳労働への転換、産業を「インテンシブ」で日本中がパニック状態に陥り、凶悪犯罪は多発、家庭内でのミニゲーム」不足は極

(前味方村公民館運営審議会)

下田村公民館

南蒲原郡下田村は、三条市から東へ向って約10キロ。人口約二万三千人で、いわゆる「山村」に属し、「かもし」の里として知られています。

下田村には中央公民館、藤野公民館の二つの独立館と中央公民館・長浜支館と臨時支館の二つの支

館にそれぞれ分かれており、その地域の特色をつかんで活動を行なっております。

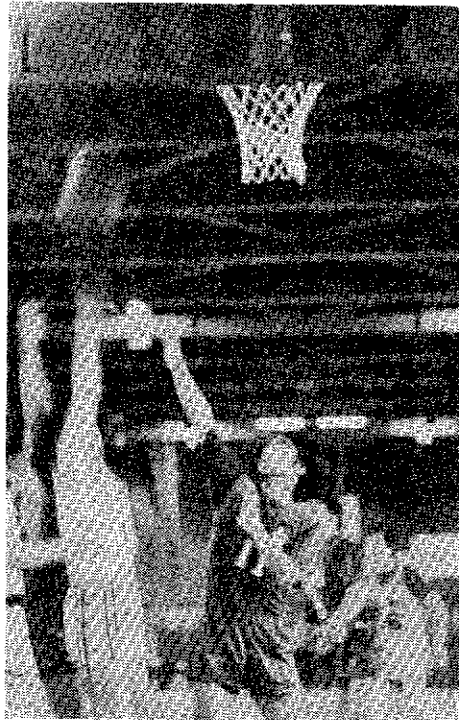
また昔から、スポーツが盛んに行なわれてきた所で、現在でも、野球・バレー・バスケット・相撲・スキー・空手・陸上・登山とその活動範囲は広く、その中でもここ二、三年のバスケットボールの普及には目を覚ますものがあります。そこで、昨年十一月開催した「村長杯争奪バスケットボール大会」について紹介したいと思います。

バスケットボールは、十年前ほど前までは、村の青年団を中心として、盛んに活動されていたスポーツの一つでしたが、青年団の衰退に伴ない、その活動は低下する一方で、五年ほど前には、その活動がほとんど停止するという状況でした。しかし三年ほど前から、二、三の若者達の間から、「もう一度バスケットボールを復活させ

全村がレベルアツプ

飛び交うバスケットボール

運営して行くことは大変むずかし、今年度より公民館がバックアップすることになったのである。下田村の社会体育において高い大会をのぞいて確保し、このバスケットボールに限り、まず初めにサークルが、主催 教育委員会、協力 下田村バスケット連盟



盛んなバスケットボール大会

よここという動きが風られ、一昨年中で、公民館を必要とした場合、公民館もその要求にできるだけの答へやるといふ考えが多い。今年度は大会の前、二回の審判講習会を開催し、大会は講習会に参加した人達から選んだが、しかし、これら、審判をしてもらう計画にしま

参加チーム 中学九一般 十一
試合方法 トーナメント方式(三位決定戦有り)十五分ハーフ・ハーフタイム五分
内規 中学生と一般の試合の

合は、中学生にハンデを付す、七号ボールを使用する。三位までトロフィー、四位まで賞状。参加者 全員の記念の手拭。下田村には大きな体育館がない

ため急遽は、約十キロ離れた中学校の体育館でそれぞれA・Bブロックに分れ、一人づつの公民館担当者と審判部長として、村内の中学校の体育館の先生を依頼し、あとは、各チームから二、三名ずつオフィシャルとして白でもらいま

思われる規約でしたが、結果は、それでも四位に届かず、また思わぬ強さに彼等もおどり、中学生も参加したことは大変良かったと思ひます。また中学生に話しかけても、「この方がずっと、やりにくい」という意見が多かった。

最後、この大会で一番気を使ったのは、会場が二つに分かれていたため、双方の時間のずれの問題が気になりましたが、一試合を必ず十五分で終了させ、計画時間通りに終了させることができました。また大会を開く前にこなった審判講習会、連盟の人達との充分な話し合い、それから連盟の人達の意見を優先したことにより、大会の運営に大変努力してもらい、公民館の大会ではなく、皆んなの大会という意識が強くなりました。

(下田村藤野公民館 小林弘明)

社会教育広報と公民館報

▽広報の研究をライフ・ワークとして三十年の研究と実践を重ねた著者が▽社会教育に集点を合わせた新著

著者 社団法人・全国公民館連合会副会長 公民館報編集主任 村長連盟常務理事

発行所 日常出版株式会社
A5判 定価 二、五〇〇円
上製本 送料 二〇〇円

樋上亮

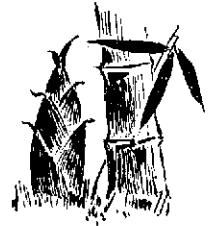
序章 社会教育広報の緊要性
I 広報の基礎知識
第一章 広報の基礎理念
第二章 広報活動の企画
第三章 訴求の技術と人間性
II 公民館報の編集と発行
第四章 館報による広報の基本問題
I 広報における館報の地位 2 単独の館報と合同の広報紙 3 館報と一般行政広報との関係 4 館報の基本設計 5 営業広告掲載の可否
第五章 編集企画と取材
1 1つの館報の条件 2 編集企画と面談 3 記事の種類と集め方 4 取材の方法と心がまえ

第六章 記事原稿の書き方
1 原稿用紙の選定と使い方 2 広報文章の要素 3 用字・用語(並用漢字) 4 現代かなづかい・送り仮名 5 句読点と記号 6 文の組み立て 7 ニュース記事の特徴
第七章 紙面づくりの技術
1 編集進路とレイアウト 2 見出しのつけ方 3 写真とカットの活用 4 紙面づくりの実際 5 校正
III 身近な広報媒体の利用
第八章 視聴覚媒体
1 媒体の多角的利用と補

完作用 2 有線(無線)放送 3 小型映画・スлайド 4 移動公民館(広報車) 5 掲示用媒体と回覧板
第九章 パブリシティ
1 新聞・放送の利用 2 パブリシティの心得
第十章 広聴活動
1 広聴の意義と広聴との関係 2 広聴活動の実際 3 広聴の結果処理
第十一章 調査と測定
終章 跋四題
1 広報の責任は館長にある 2 理想者は育てるべきもの 3 弁論をもたない被告 4 愛情は最良の技術である。

県公連であっせん

あの頃のこと



あの頃のことについて、昔は、昔をじっと憶はせてくれる。竹藪が繁り、藤の葉がほのかに仏教文のこの郷愁にも似た気持ちになる。生寄りになった証拠である。

今月のはじめ前から訪れたいと思っただけでなかった飛鳥の里。野辺の道、吉野路を歩くと、一緒に一週間はかりのむきき、足の向くまのつくりめぐって来た。

大和路の歴史散歩と言いたいが、それこれの垣方葉も多少し、強しておけばよかったな、つくづくは、何ともいえないおもしろさ、つくづくは、それにしては神話の時代から伊弉諾に愛むる八世紀の終り頃からと言えば、千三百年も昔のことになる。蘇我氏などの

飛鳥川、西岸小高い丘が甘藷の丘である。「明日香の石きみやこ蘇我が朝廷をとりまいて、山崎がほし、秋の夜は河し情けき、七世紀にかけて仏教文化が盛んで、花開いた飛鳥の里、今は温泉もなければ、特別な観光地でもない。深秋の大和路、道なき道なき、人づらひが、い、れん草の畑がジュワッタンを敷いたように美しい。玉甲の乱、近衛朝廷を倒く、大和の山の静かな緑が飛鳥の

飛鳥の里をたずねて

小野 正二

大和路の歴史散歩と言いたいが、それこれの垣方葉も多少し、強しておけばよかったな、つくづくは、何ともいえないおもしろさ、つくづくは、それにしては神話の時代から伊弉諾に愛むる八世紀の終り頃からと言えば、千三百年も昔のことになる。蘇我氏などの飛鳥川、西岸小高い丘が甘藷の丘である。「明日香の石きみやこ蘇我が朝廷をとりまいて、山崎がほし、秋の夜は河し情けき、七世紀にかけて仏教文化が盛んで、花開いた飛鳥の里、今は温泉もなければ、特別な観光地でもない。深秋の大和路、道なき道なき、人づらひが、い、れん草の畑がジュワッタンを敷いたように美しい。玉甲の乱、近衛朝廷を倒く、大和の山の静かな緑が飛鳥の

研修テキスト

公民館経営ハンドブック<4分冊>

日常出版株式会社
 監修 湯上二郎 著者 湯上二郎
 著者 斯界の18氏
 A5判・4冊セット(函入) 定価3,000円
 送料120円
 各冊・定価800円
 送料120円
 現代公民館研究会/編

●主な目次と執筆者

第1分冊 公民館の使命と組織		
1 生涯教育と公民館	湯上二郎	湯上二郎
2 公民館の歴史	安原昇	安原昇
3 コミュニエィの形式と公民館の役割	湯上二郎	湯上二郎
4 館長と主事の職務	吉瀬純一	吉瀬純一
5 公民館運営審議会との運営	光安常喜	光安常喜
第2分冊 公民館の経営と管理		
1 公民館と法律問題	伊藤俊夫	伊藤俊夫
2 公民館の設計と施設管理	林健生	林健生
3 公民館の予算編成と経理	西ヶ谷悟	西ヶ谷悟
4 公民館経営の診断	朝比奈博	朝比奈博
5 図書館や博物館との連携	佐々木実	佐々木実
第3分冊 公民館活動の企画		
1 公民館活動の立案	安原昇	安原昇
2 公民館活動の評価	岡本包治	岡本包治
3 公民館調査の進め方	渡辺史直	渡辺史直
4 公民館広報の着眼点	樋上亮一	樋上亮一
5 クラブ・サークルの育成	沢田正夫	沢田正夫
第4分冊 公民館活動の展開		
1 学級・講座の開設と運営	春日英明	春日英明
2 集会・行事の企画と運営	袖谷忠洋	袖谷忠洋
3 図書室の利用と相談事業	中島俊教	中島俊教
4 視聴覚教育の技法	中島俊教	中島俊教
5 体育・レクリエーション活動	日本レクリエーション協会	日本レクリエーション協会

の首塚と伝えられる石塔がある。憶いよ飛鳥時代に馳せ、白山藩手に当時の歴史を回顧し、飛鳥大仏から僅か歩いて、みるく石という不思議な石像がお堂に祀られているのを拝した。これも正体不明だが、もとは明日香川の中にあつたといひ、あの時代の石造物である。

飛鳥の石造物だけたずねても面白、渡船石・石舞台・鬼の雷隠・鬼のまな板、両面石・猿石・象石、何のため何の意味で造られたものか。飛鳥のそぞろ歩きの一駒を。

(前中下町公民館長)

公民館関係法令集

内容・教育基本法・社会教育法・社会教育施行令・公民館運営設備基準・通達(公民館基準の取り扱いについて)

A5判、34ページ
 一部二五〇円送料別
 公民館関係の諸会議にご使用ください。
 申込先・県公連事務局

あ と が き

読みやすく密度の高い内容を心がけてはいるものの、つきつきと重なる仕事と併せながらの編集作業はなかなか思うようにはかぬものです。毎月の切目の頃ともなると、いつものことながら目の中が痛くなるような気がいたします。

そんなとき、現場から年々生きこした「実践記録」「私と公民館」などの原稿が届くと、救われるような思いがいたします。また表紙用の美しい色紙が届けられたときなどは、まさに蘇生の思いがいたします。

(本)

※各分冊ごとに……
 ①公民館質問箱 ②公民館関係文献の解題と要録
 巻末に①公民館年表 ②索引を掲載・県公連であっせん